

西予市出身・風賢央関を迎えて内子場所 相撲文化を継ぐ伝統の大会

■個人の部優勝者

学年	男子	女子
1年生	藤田 琉煌 (天神小)	小林 瑞季 (内子小2年)
2年生	小野 蒼和 (天神小)	
3年生	森岡 咲人 (内子小)	大野 さち (内子小3年)
4年生	小林 千紜 (内子小)	
5年生	井上 智喜 (五十崎小)	宮岡 楓 (石畳小5年)
6年生	達見 政輝 (内子小)	

「内子町子供相撲大会」が8月8日、共生館で開かれました。第20回の節目となる今回、西予市出身の十両・風賢央関と、三段目・風佑城さんが特別参加。「皆さんの一生懸命な取組に期待したい」と選手を激励しました。試合は団体戦と、学年・男女別の個人戦を実施。勢よくぶつかる選手に、「押せ」「踏ん張れ」と力強い声援が響きます。団体戦では、低学年は天神小、高学年は内子小が見事、優勝に輝きました。また取組の合間には西予市の横林巡業クラブが「初切」を披露して、会場を盛り上げました。



1_大瀬小学校の東瀬旺岳さん(右)と小林茉莉愛さんが、力強く選手宣誓 2_選手にエールを送った風賢央関 3_土俵際の攻防。白熱の取組が続く 4_試合後、特別にぶつかり稽古を実施。現役力士に胸を借りる貴重な経験に 5_相撲の禁じ手を面白おかしく紹介する「初切」。会場に笑いが巻き起こった 6_勝利のハイタッチに笑顔がこぼれる 7_緊張の立ち会いの瞬間——「はっけよい！」



(後列左から) 藤友和磨さん、長岡秀樹さん、西谷郷平さん (前列左から) 曾根航也さん、平野太郎さん、兵頭和也さん

「第35回愛媛県消防操法大会」が7月26日、松山市の城山公園管理広場で開かれました。県内消防団員の技術力向上と消防活動の円滑な遂行を目的に行われる大会で、今回はポンプ車操作の部を実施。選手は消防ポンプ自動車を操作して放水し、火点に見立てた的を倒すまでの時間や、機械器具の取り扱いの正確さなどを競いました。

内子町消防団からは、大洲喜多地区予選を通過した内子分団第1部が出場しました。3月から続けた練習の成果を見せ、大一番で過去最速タイムを記録。総合得点146.5点で17チーム中10位となりました。大伴利治部長は「みんな仕事がある中で練習を続けてくれた。これでもいい経験。次の団員にも伝えていきたい」と労をねぎらいました。

「打ち水大作戦」が8月8日、風博物館で行われました。初めに地域おこし協力隊の大角昂平さんが水に関するクイズを出題。子どもたちは「川の水はどこから来るか」「打ち水をするとなぜ涼しくなるのか」などを学んだ後、打ち水に挑戦しまし

た。「水の日」応援大使のポケモン「シヤワーズ」に見守られ、柄杓で敷地内に水をまくと、地面の温度を10度ほど下げることができました。六車優斗さん(内子小2年)は「本当に涼しくなるし、楽しい。家でも試してみたい」と笑顔でした。



「一斉に水をまく子どもたち。水たまりができるほど夢中になっていた」



「内子座の瓦に親しむワークショップ」が7月28日、内子自治センターで開催されました。(株)金岡左瓦工事の金岡浩司さんが、改修中の内子座について「瓦は約2万7000枚。創建時の職人の思いを残すために、直せるものは焼き直して並べていく」と説

明しました。その後、参加者は瓦粘土で作品を制作。かわら館・吉井敏さんの指導で、内子座の紋章やキツネ、ミニ鬼瓦などの型で形を作り、竹串などを使って細部を仕上げていきました。作品は10月中旬から内子座楽屋に展示する予定です。

瓦に込めた職人技と思いに触れる
内子座を学ぶ夏のワークショップ